

教科別授業改善推進プラン（国語科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・読書量を増やすことで、物語文については、叙述をもとに内容を読み取ることができた。
- ・「書くってたのしいね」や辞書の活用などにより、主語、述語、修飾語などの理解ができるようになってきた。
- ・ペアトークなどを充実させたことにより、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、自分の考えを広げることができた。

(2) 課題

- ・文章構成や段落を意識して自分の考えを書く力が弱い。
- ・漢字の習得には個人差が見られる。文章を書くときに漢字を使わなかったり、促音や拗音の表記に誤りが見られたりする。今後も重点的に取り組む必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き△ ・書く △ ・読む △ ・言葉の学習 ▼	/	/
第5学年	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き▼ ・書く ▼ ・読む (物語△説明文▼) ・言葉の学習 △	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き△ ・書く ▼ ・読む △ ・言葉の学習 △ (第4学年時)	/
第6学年	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き▼ ・書く△ ・読む△ ・言葉の学習△	観点別 ・話す聞く △ ・漢字 読み△書き▼ ・書く△ ・読む(物語≡説明文▼) ・言葉の学習△ (第5学年時)	観点別 ・話す聞く ▼ ・漢字 読み△書き▼ ・書く△ ・読む△ ・言葉の学習▼ (第4学年時)

(2)分析

4年	<p>全体の正答率は、区の目標値を上回るものが多い。漢字の読み書きでは、ほぼ平均だった。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段階構成で自分の考えを書くことについては、無解答者がいるものの、目標値を大きく上回った。</p> <p>●漢字の読みについては、多くの児童が身に付けているものの、無解答者もいて、ほぼ平均値である。6問中2問しか平均を上回らなかった。</p> <p>●言葉の学習の主語と述語の理解が、身に付いていない児童が多い。</p>
5年	<p>全体の正答率は、区の目標値を上回るものもあるが、下回るものが多い。</p> <p>○物語文では、登場人物の気持ちや行動を叙述をもとに読み取ることがよくできていた。</p> <p>●説明文の内容を読み取り、中心となる語を見つけて要約する力が不十分である。</p> <p>●指定された長さで、2段落構成で自分の考えと理由を書く力が身に付いていない児童が多い。</p>
6年	<p>全体の正答率は、区の目標値を上回るものが多い。目標値に達しているが、修飾語の理解が、昨年度より下回った。</p> <p>○物語文を読んで、登場人物の行動や心情を捉え、自分の感想をもつことがよくできていた。</p> <p>●漢字を正しく書く力が不十分である。また、読みも平均値であるが、3割ほど目標値を下回っている。</p> <p>●文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整えることについて、7割近い児童が誤答で、身に付いていない児童が多い。</p>

3 重点課題

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・話を正しく聞き取ることや、自分の伝えたい内容が伝わるように話すこと。 ・自分の伝えたい内容を文章で表現すること。 ・「は・を・へ」などの助詞や促音・長音・拗音を、正しく表記すること。 ・平仮名・片仮名・漢字の字形や書き順を正しく理解すること。 ・文章の大体の内容を捉えること。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・対話等において、話題に沿って自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて感想や質問を返したりする力を伸ばすこと。 ・すらすらと読んだり、読みの力を身に付けたり、大体の内容を読み取ったりできること。 ・習った漢字やカタカナを作文等の中で正しく書いたり、促音や拗音、助詞、点や丸、かぎを文の中で正しく使ったりすること。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を伸ばすこと。 ・既習漢字の「読み・書き」を定着すること。学習した漢字を使って文章を書くこと。 ・学習した物語文や説明文については、登場人物の気持ちや筆者の意図などを考えて読むこと
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書き、送り仮名を正しく書けるようにすること。 ・自分の意見をその根拠と区別しながら段落を意識して書けるようにすること。 ・テーマに沿った自分の考えをもち、短時間で書けるようにすること。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章の全体の構造を捉えて要旨を把握すること。 ・様々な条件で一定の長さの文章を書くこと。 ・漢字の読み書きが定着すること。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、心情語や会話文、登場人物の動作や行動、情景描写などから、登場人物の心情を読み取ること。 ・初め、中、終わりを意識した文章構成の意見文を書くこと。 ・普段から、学習した漢字を使えるようにすること。

4 授業改善策

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチや話し合い活動を通して、質問や感想を言う機会を設け、話の大事なところを聞き取るようにさせる。 ・作文指導等を通して、字形に気を付けて書くことや正しい表記の仕方、自分の考えを表現する力を高めていく。 ・平仮名、片仮名、漢字において、字形や書き順を意識させた上で、反復練習や個別指導を行い、正しく理解させる。 ・関連図書を読んだり、まとめたりする活動を通して、大体の内容を捉える力を身に付けていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・何について話し合うのか、話題を捉えさせたり、自分の考えやその理由を明確にもたせたりする。 ・友達の考えを聞いた時の感想や質問の話型を示す。また、友達の考えから学んだことを紹介する機会を作る。 ・授業や家庭学習で音読を定着させ、読む習慣を定着させるようにする。また、本の読み聞かせやブックトークを通して、児童にも「読みたい」という意欲をもたせる。 ・新出漢字の練習や小テストを定期的に行い、反復練習を重ねていく。また、漢字を使おうとする意識を高める。 ・「書くって楽しいね」の活用や作文指導を通して、促音や拗音、助詞の適切な使い方を身に付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を使って言葉の意味を調べたり、言葉を集めたりする学習を行う。 ・音読の練習や、学習した言葉、漢字を使って文章を書くことを継続して続けていく。 ・新出漢字の練習や小テストを定期的に行い、反復練習を重ねていく。 ・物語文では場面ごとに登場人物の気持ちを読み取り、その上で気持ちの変化を読み取る。 ・説明文では、問いと答えに着目し、筆者の意図を捉えていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字は小テストを適切に行い、確実に定着できるようにする。 ・説明文や物語文などを授業で読み取る際には、自分の意見や考えと、その根拠となる叙述に着目させながら学習に取り組ませるようにする。 ・自分の考えを書くときには、段落意識をもって書くよう書き方を示す。 ・学習感想など自分の考えを書く時には、時間を意識して書くようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているかを考えさせる学習を継続して行う。その際、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見をもっているのかなどに着目させる。 ・説明的な文章の意図を捉え、自分で大切な言葉を見つけて、要約したり要旨をまとめたりする活動に取り組ませる。 ・小テストとは別に、宿題に出した漢字3文字が定着しているかを毎日確認するようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、心情語や会話文の文末表現、心情と結び付く登場人物の動作や行動に着目させる。また、情景描写にも着目させ、登場人物の心情を読み取らせる。 ・初発の感想や自分の意見を書くことなど、日常的に文章を書く機会を多くし、初め、中、終わりの文の組み立てを考えながら書くように指導する。 ・漢字を書いたり読んだりする力を十分に身に付けるため、朝学習等の時間を活用し、学習する時間を多めに設定する。
全学年 共通	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くって楽しいね」を活用し、言葉のきまりや文章の書き方を身に付けさせる。 ・学校図書館を活用し、読書学習司書と連携した授業を行う。 読書目標に挑戦させ、読みの力を身に付けさせる。 (低学年 120 冊、中学年 100 冊、高学年 80 冊または 10000 ページ) ・授業の終末に学習感想を書く時間を設け、授業で学んだことや感想などを短時間で書けるようにする。